５竹台高第 1494 号
令和６年３月 29 日

令和５年度　東京都立竹台高等学校　学校経営報告

東京都立竹台高等学校長
福島　泰直

１　今年度学校経営計画の実現状況の概要

学校経営計画として、「中期的目標と方策」として８項目を示し、それぞれについて、「今年度の目標と方策」として、（１）教育活動の目標と方策、（２）重点目標と方策の２つの視点で、より具体的に示し、学校経営を行った。その実現状況について以下に概要を述べ、次節以降に数値目標の実現状況を報告する。

［取組状況の概要］

（１）学習指導の充実

新学習指導要領施行２年目となり、昨年度の課題を踏まえ、その解決に取り組んだ。観点別評価について、教務部主導で、著しい教科間格差が生じないよう、各教科に積極的に働き掛け、調整を行い、学校で決めた統一基準に従い観点別評価を行った。また、新学習指導要領への対応として、教科会における各教員間での協議、調整、共有のプロセスが極めて重要であることから、他業務との兼ね合いにより物理的に会議時間を確保しにくいという状況を改善するため、今年度は、年間行事予定表に教科会開催日を記載し、会議の実施を固定化した。また、「人間と社会」について、「人社」「探究」委員会を中心に教科横断的な視点による指導計画を作成するとともに各学期に担当者と会議を行い、様々な課題に対して解決を図る取り組みを実践した。一方、校内のデジタル化の推進、授業でのＩＣＴ活用等については、積極的に取り組みを推進することで全校一斉オンライン授業も問題なく実施できた。補習・講習会の充実として、朝学習を積極的に活用するとともに、土曜講習を部活動と同様に位置付け、進路部と教務部、各教科が連携して運営している「まな部」が生徒間で定着し、特に定期考査前のまな部への参加率が増加するなど、自ら意欲的に参加する生徒が増大した。在京外国人生徒への日本語指導は、放課後を活用し、継続して外部指導者を基軸に校内支援体制の充実を図ることができた。さらに来年度からは、７限、８限に学校設定科目として、日本語指導を行う講座を設置する。また、在京外国人以外の生徒、保護者から、放課後に学習指導を受けたいという要望が出されているため、放課後に外部人材を活用した学習指導体制の構築を推進する。

（２）進路指導の充実

東部学校経営支援センター特別指定校として取り組んだキャリア教育についての研究成果を受け、引き続き Classi 機能を活用して、ポートフォリオを作成させる指導が行われている。また、「総合的な探究の時間」について、「人社」「探究」委員会を中心として、各学年が行った取り組みの中で、生徒が学びの成果を実感できるような授業を学校の財産として引き継いでいけるよう、組織的、一元的な指導体制づくりを行った。また、今年度も出口段階で生徒に安易な妥協をさせないことに注力して第一志望への進路指導を行ってきた結果、数だけでなく内容的にも従来よりも難関大学進学を実現させることができた。３年間を見通した、計画的な進路指導が、生徒の卒業後の進路に対する意識を高め、進路未決定者を減少させている。

（３）生活指導の充実

新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、ここ数年校内において、感染者の増大を防止するために、登校に際して、個に応じた柔軟な対応を行ってきたため、遅刻者数が増大する傾向であった。今年度、新型コロナウイルス感染症の５類移行により、制限のない教育活動が行われるようになったが、これまでの習慣から抜け出せず、遅刻者数は過去３年間の数よりより増加するという結果となった。今年度途中から、遅刻指導を学校の喫緊の課題に位置づけ、全教員による登校指導、担任による生活習慣を改善することを目標とした個別指導、保護者と連携した家を出る時間の指導等、きめ細かい指導を繰り返し行い、遅刻者数の減少に取り組んでいる。頭髪・服装指導においては、朝、校門に多くの教員が立ち、指導を行っている。授業開始時にも、授業担当者が身だしなみ指導を行うなど指導の徹底を図っているが、一部の生徒がスカートの折り上げを繰り返すなど、各教員の粘り強い指導が必要とされている。学校はルールを守ることの大切さを学ぶ場であることを一人ひとりの生徒がしっかりと認識し、言われるから直すのではなく、自ら自分を律することができるよう、生徒の自覚を促す丁寧な指導を継続していかなければならない。さらに、道路交通法の一部改正により、ヘルメット着用が努力義務となったことを受け、繰り返し生徒、保護者に自転車登校時のヘルメット着用を指導した。全ての生徒が着用する状況にはならなかったので、来年度は、ヘルメット着用を自転車通学の許可条件とし、強力に着用を推進する。本校の生活指導において大切にしてきた「規律ある自由」を生徒に十分に理解させるとともに、生徒が自律的、自発的に自らの行動をコントロールできるように、今後も指導の充実を図る。

（４）募集・広報活動の充実

今年度グラウンドも完成し、昨年度から続く「新校舎効果」による応募倍率伸長というメリットを享受し続けている。しかも、竹台高校を強く志望し、入学してくる生徒が、ここ数年増加しており、そうした生徒が入学後、落ち着いて前向きに学校生活に取り組む様子が随所に見られており、こうした状況を学校行事や教育活動の様子として具体的かつタイムリーに「竹台通信」やホームページ等で積極的に発信し、安心、安全で、校訓の精神である「共に学び　共に進む」を実践する学校であることをアピールしている。また、引き続き全員態勢での募集広報活動を実施し、総務部を中心に組織的、計画的、戦略的な募集活動を行うことで、募集人数が７学級であっても、入学者選抜において、高い応募倍率を維持することができた。今後はさらに「本校の特色」を明確に示し、本校の教育活動を深く理解してもらえる学校説明を行うことで、多くの中学生に本校を強く志望してもらえるよう、より効果的な募集対策の在り方について検討を重ねていく。

（５）健康・安全の充実

新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行に伴い、教育活動への制限がなくなり、かつての学校生活に戻るための学校環境の整備に努めた。しかし、新型コロナウイルス感染症はなくなったわけではなく、今も罹患する生徒がおり、さらに、インフルエンザ等の他の感染症が校内に蔓延する可能性がある状況も見られた。そのため、校内においては、生徒に対して引き続き、「自分を守る、家族を守る、友達を守る」ための感染症対策への意識を高める指導を行った。今も多くの生徒がマスク、手洗い、消毒等の感染症対策を継続しており、校内において、感染症の感染拡大を防ぐことができている。また、通常の学校生活に戻ることで、友人関係や家族関係など、様々な問題を抱え、保健室を訪れる生徒が増え続けている。そのため、担任、養護教諭が丁寧に対応し、スクールカウンセラーと連携しながら、今も生徒一人ひとりに対する寄り添いを続け、学校が安心、安全な居場所となるよう取り組んでいる。さらに、全教員間での情報共有のため、全校でのケース会議、研修を行い、個々の教員

の指導力を高める体制づくりを継続的に行うとともに、生徒が校内で心身を休めたり、悩みを相談することが可能な居場所づくりを行う。令和６年１月１日に、能登半島大地震発生を受け、災害から「自分を守る、家族を守る、友人を守る」ために、荒川区、消防署、水道局、町会と連携した防災訓練を実施し、災害に対する体験的、実践的な防災教育による生徒の防災意識の向上を図っている。

（６）特別活動・部活動

今年度は、新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限がなくなり、体育祭・文化祭はもちろん、校外学習、修学旅行も計画どおり、ほぼすべて実施することができた。体育祭・文化祭ともに、天候にも恵まれ、生徒は持てる力を最大限に発揮し、上質な内容を実現することができたが、文化祭は、東京都において感染者が拡大していたため、感染症対策として一般公開は行わず、保護者及び中学生にのみ人数制限を加えたうえでの公開とした。特別活動においては、引き続き校内デジタル化を推進しながら、特別活動の様々な場面での内容の充実に、生徒と教職員が一体となって取り組むことで、様々な場面での生徒の可能性の伸長を感じることができた。部活動は事故なく、意欲的に継続し続けることを大切にして取り組んでいる。自主性の育成を目標にして、やらされるのではなく、自分で考え行動することで、新型コロナウイルス感染症の落ち着きもあり、活発に活動する部も増えている。同好会から部活動に昇格したり、部員数が増加したり、よい成績を残したりと今後の成果に期待が持てる。さらに、部活動における技術指導、メンタル面での支援のため、部活動支援員が多数活動しており、顧問の教員と連携しながら、指導にあたっている。

（７）地域連携の充実

学校開放では、テニスコートの貸し出しを行った。グラウンドは、今年度末に完成したが、来年度は、テニスコートが改良工事に着手するため、学校開放が行えなくなる。テニスコートに接して、マンションや一軒家が周りに立ち並んでいるため、テニスコートの防球ネットを超えてボールが出てしまい、近隣の方々の迷惑とならないため、改良工事では、テニスコートの周りに建てられている防球ネットを可能な限り高くする工事も行われる。住宅街の中にある学校として、いかに近隣の方々に理解をいただきながら、十分な教育活動を行っていくかが問われている。地域の行事への参加については、近隣のお祭りから、部活動の参加を求められたが、都内の感染症罹患者が増加している時期であったため、参加を自粛することとした。来年度は、生徒の安全、安心に十分配慮したうえで、地域との連携を推進していきたい。また、昨年度から「人間と社会」に位置付けた地域清掃活動について、今年度も東日暮里５丁目町会の方々と生徒が一緒に近隣地区の清掃活動を行い、地域貢献することの大切さを学ぶことができた。

（８）学校経営・組織体制の充実

主幹会議は、忌憚なく意見交換ができることから、主幹教諭のＯＪＴの場と位置付け、時間割に組み込み、毎週１回、定期的に開催した。そのため、学校課題について、迅速に発見、共有、解決策の検討が行われることで、それぞれが自己の役割をしっかりと認識し、統一的な学校運営を行うことができた。また、各分掌、各学年主任間の横の連携が各会議の前段階において、タイムリーに行われるようになり、議題の精選、調整が会議の前に行われ、会議の進行が円滑になり、会議時間の短縮につながった。さらに、会議におけるペーパーレス化を推し進め、特に職員会議は、資料の印刷をやめ、端末を利用して、資料を確認し、会議を行った。

２　数値目標の実現状況と自己評価
※Ａ＝十分達成　Ｂ＝概ね達成　Ｃ＝達成できなかった
（　）内数値は前年度実績　　【　】内数値は今年度結果

数値目標としては、達成できたもの、達成できなかった項目がある。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による教育活動の制限もなくなり、数値目標を指標として、計画的、組織的な教育活動を実施した結果を示す。長い期間、感染症対策として行ってきたことが、いつの間にか生徒の日常生活の中に定着し、いざ感染症対策がなくなっても、生徒がすぐに対応できない状況も見られたため、現段階では、評語はＣとせざるをえないが、目標実現、課題解決に継続して取り組んでいることから、学校経営上は、全体的に安定していた。

≪学習面≫

・自習室の開室	常時開室（学校行事・考査等期間以外常時開室） **【常時開室】Ａ**
・まな部の実施	各学年５回以上（1 学年３回　2 学年５回　3 学年３回） **【1 学年７回　2 学年 12 回　3 学年 10 回】Ａ**
・長期休業中講習	開校講座　20　延べ 200 時間以上 500 名以上 （教科 21 講座 190 時間 569 名、日本語教室集中講座 10 時間 66 名参加） **【教科 14 講座 146 時間　93 名、日本語教室集中講座 10 時間 55 名参加】Ｃ**
・生徒による授業評価における肯定的評価	80%以上（79.7%）**【81.2%】Ａ**
・図書館貸出冊数	2000 冊以上（1921 冊）**【1756 冊】Ｃ**
・資格取得準２級以上	20 名以上 （６名　英検：９名　漢検：11 名） **【14 名　英検：６名　漢検：８名】Ｃ**

≪進路指導面≫

・４年制大学進学率	40%（40%）**【46%】Ａ**
・日東駒専以上現役合格	10 名（９名）**【16 名】Ａ**
・就職内定率	100%（100%）**【100%　10 名】Ａ**
・進路未決定者	10%未満（16%）**【9%】Ａ**

≪生活指導面≫

・年間遅刻 30 日以上	１年生　5%以下（3.5%）**【18%】Ｃ** ２学年　5%以下（28.7%）**【29%】Ｃ** ３学年　20%以下（24.0%）**【24%】Ｃ**
・部活動加入率１学年	75%（68%）**【72%】Ｂ**
・学校評価アンケート　地域の否定的評価	20%未満（46.2%）**【15.2%】Ａ**
・体罰	０件（０件）**【０件】Ａ**

≪募集・広報活動面≫

・ホームページ年間更新回数	200 回以上（204 回）**【226 回】Ａ**
・学校説明会	５回（５回：1016 名）**【５回：966 名】Ｂ**
・個別相談会	２回（２回：　68 名）**【２回：80 名】Ａ**
・中学校訪問	80 校（78 校）**【105 校】Ａ**
・塾訪問	30 校（24 校）**【33 校】Ａ**
・中進対第１志望調査	1.40（1.43）**【1.68】Ａ**
・入学者選抜応募倍率（学力検査）	1.30（1.25）**【1.61】Ａ**

・文化祭来校者数　　2000 名（未実施）
【450 名（中学生 188 名、保護者 262 名：人数制限実施】A
・「竹台通信」発行　　12 回（12 回）**【12 回：月 1 回発行】A**
・相互授業見学各学期 1 回以上　　100％（1 回は実施が 41％）**【100％】A**

≪地域連携面≫
・施設開放　　10 団体以上　10 日（14 団体 10 日）
【21 団体 12 日】A

≪学校運営・組織体制面≫
・主幹会議　　20 回以上（20 回　企画調整会議後に実施）
【24 回】A
・電子起案の推進　　90%以上（93％）**【99％】A**
・センター契約　　55％（55％）**【72％】A**
・定時外在校時間　　80 時間越 0 名（1 名）**【5 名】C**
・月 1 日以上の定時退庁　　100％（未実施）**【実施】A**

３　次年度以降の課題と対応策
（１）学習指導
引き続き基礎・基本の学習内容の着実な定着を進めながら、学力の向上に取り組んでいく。そのため、各教員が新学習指導要領や大学入学共通テストに対応した授業づくりを行い、話し合い活動やＩＣＴ機器を積極的に授業に取り入れ、生徒の学習意欲を高める。また、教科主任会及び教科会を定期的に開催し、教科内での指導内容や指導方法の共有化を進めるとともに、教科横断的な連携を深め、組織的な学習指導体制を構築する。模試を活用して各生徒の学力状況を分析し、それぞれの生徒に必要な学習を明確にし、担任、教科担当が連携しながら意図的・計画的に、「学び直し」を行い、「わかる」楽しさを通して、生徒の学習意欲を高める。さらに、全学年朝学習の時間を有効に活用し、学習習慣の定着を図る。始業前・放課後の自習室の開放を継続するとともに、放課後には、外部人材を学習指導員として配置し、個別指導を行うようにする。さらに、放課後には 7 時間目、8 個間目を設定し、学校設定科目を開講し、日本語指導を行う。生徒間に定着したまな部の活動も、各教科が中心となって、活性化することで、週休日等の学習支援として、生徒の主体的な学習を支援する。

（２）進路指導
生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路選択することができるよう、入学時から系統的かつ組織的な指導を、引き続き意図的・計画的に実施する。各学年と進路部がこれまで取り組んできた取り組みを継続するとともに、常に課題意識を共有しながら、それぞれの生徒に対応しうるキャリア教育を目指し、全体計画の充実を図る。模試・適性検査・個別面談等を実施し、個々の生徒の課題を明確にするとともに、保護者と連携しながら、生徒に寄り添い、主体的に進路を考えさせ、的確な助言、指導を行いながら、自ら進路目標を設定させ、易きに流れず努力し続けることができる進路指導を引き続き継続して行う。

（３）生活指導
全校集会・学年集会・ホームルーム等を活用し、本校のルールやマナーについて繰り返し指導し、生徒が自ら主体的にルールやマナーを守る行動が取れるようにする。本校が大切にしてきた「規律ある自由」について、生徒の理解を図るため、高校は社会に出る前に、ルールやマナーを守ることの大切さを学ぶ場であり、自由とはルールやマナーを守ったうえで、

享受できる大切なものであることを確実に理解させる。自由の大切さを理解し、高い規範意識をもち、自らの行動をしっかりと制御できる生徒を育成していきたい。今年度、身だしなみ指導、遅刻指導を受ける生徒が増加した。今年度途中から、遅刻・身だしなみ等の規範意識を高める様々な対策を行った。その成果を検討し、調整を加えながら、より効果的な指導方法を見つけ、実施していく。生徒会活動、部活動においては、生徒が主体的に活動する自己啓発活動の場として、来年度も多くの部活動指導員等の地域の外部人材を活用し、生徒の心と体の調和した成長を促す。

（４）募集・広報活動

推薦、入学者選抜前期の応募倍率の向上を目標とし、倍率が向上した今年度の募集・広報活動の内容について、再検討し、より効果的な募集活動を実施する。具体的には、①本校の特色について、中学生がわかりやすい内容となるよう改めて検討する。②入学生に、より詳細なアンケートを行い、入学生からの情報を集める。③学校説明会の来校者の制限を撤廃する。さらに、地域等、多くの人に竹台高の教育活動を伝えるため、竹台通信の内容の見直し等を行いながら、ホームページ等を活用し、積極的に外部への情報発信を行っていく。

（５）健康・安全

新型コロナウイルス感染症や、その他の感染症に対する対策を、地域の感染状況等関連する情報の収集に努めながら、校内での生徒間の感染を拡大させない対応を徹底する。学校は、生徒の命や健康を守り、安全・安心を最優先とする教育活動を行う場であり、その環境づくりを強力に推進する。そのため、学校不適応や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラーや学校産業医、都立版エリアネットワークによる発達障害のある生徒支援事業等を活用した教育相談体制を充実に努め、生徒個々の状況の把握と一人一人に応じたきめ細かい指導、外部人材等を活用した教室以外の生徒の居場所づくりを行う。防災教育や安全指導について、体験を重視することで、災害や事故から身を守る方法についての指導を充実させる。

（６）特別活動・部活動

生徒会活動、・委員会活動を活性化し、生徒の学校への帰属意識を高める。２大行事である、「体育祭」「若竹祭（文化祭）」において、それぞれの実行委員会が、計画、運営の主体となり、生徒が自分たちの力で大きな集団を動かす経験を通じて、達成感や自己肯定感を得られるよう、指導する。オリンピック・パラリンピック教育による学校レガシーと、在京入試枠設置校としての特色を生かし、多様性を尊重することの大切さについて理解を深め、「豊かな国際感覚」の醸成を図る。様々な違いを有する生徒が在籍している本校において、「共に学び　共に進む」という校訓の元、互いに尊重し合い、友となり、共に歩いて行く学校づくりを推進する。

（７）地域連携の充実

生徒の安全・安心を十分に担保しながら、地域との連携を図ることで、地域に理解され、貢献できる学校を目指す。学校情報を積極的に発信し、地域の方々が、「竹台高はこんな学校」と答えてもらえるような、地域に根差した学校づくりを行う。今年度も実施したように、来年度も東日暮里５丁目町会の方々と一緒に近隣地区の清掃活動を行い、地域貢献の大切さや社会に生きることの大切さを体験させたい。引き続き、近隣の消防・水道局、荒川区防災課等の関連部局との連携を充実させていく。

（８）学校運営・組織

学校課題を全校で共有することで、取り組むべき方向が明確となり、集中して課題解決に取り組むようにする。課題解決と関連する東京都教育委員会の指定や支援を積極的に受け入れ、課題解決を進めるとともに、さらに教育活動の充実・発展に取り組む。法令・規則等に基づく組織的な学校運営を継続し、会議時間の短縮、会議資料のデジタル化、オンライン会議の導入などを通じて、効率化、合理化、省資源化を進め、ライフ・ワーク・バランスの充実に取り組む。